

メイトルの つぶやき

「ヒブキ」とは…



あけましておめでとうございます！
みなさんにとって今年も良い年でありますように心から祈っています。お正月休みは楽しく過ごせましたか？おせち料理食べ過ぎてないでしょうか？体重が少し増えてしまったという方もいらっしゃるんじゃないでしょうか…。寒い日が続いていますね。風邪をひかないように気をつけてくださいね。冬の寒さに負けないぞ！

今回のコラムのテーマは少し悲しい話ですが、同時に希望の話でもあります。

2011年3月11日に東日本大震災が起きました。東北の地震と津波の後、すぐに多くの国が日本への支援を申し出ました。2011年3月末、イスラエルは、大震災の被災地救援のため救援機2機を派遣しました。そして、2011年8月にイスラエルは東北にもう一つの代表団を派遣しました。その代表団は、3人の心理学者たちで構成されている子ども達のメンタルサポートチームでした。その代表団は、180体の犬のぬいぐるみを持参していました。その犬のぬいぐるみの名前は「ヒブキ」と言います。



日本語で「ハグ・抱きしめる」という意味です。

被災地の多くの子ども達の生活は、地震が発生した以前の生活と比べて、まったく変わってしまいました。その子ども達の中には親や家族、家を失った子ども達がたくさんいました。そして、被災地の医師は、精神的ダメージを受けた子ども達、また震災後のトラウマに苦しむ子ども達がたくさんいるということを報告しました。例えば、ある子どもは、泣くことも笑うこともしなくなってしまいました。そしてほとんど遊ぶこともしなくなってしまいました。このような子どもは、医療的なサポートが必要です。



「ヒブキ」という犬のぬいぐるみは悲しい顔をしています。だからこそ、精神的なダメージに苦しんでいる子どもにぴったりなのです。被災した子ども達は、ヒブキの悲しい顔に感情移入できるのです。そして、子ども達は、ヒブキを抱きしめることができます。ま

た、ヒブキは長い手を持っているのでヒブキも子ども達を抱きしめることができるのです（手の平にマジック・テープが付いています）。つまり、お互いに抱き合えますね。この人形療法は、子ども達が自由に犬のぬいぐるみで遊ぶことで、心のケアをしていくものです。このように、子どもは、間接的に自分自身の心の奥底にある感情を表すことができるようになるのです。この犬のぬいぐるみによるケアで、親たちも子どもの精神状態を理解することができるようになりました。例えば、ある子どもは、また地震や津波が起こるのではないかと、いつも恐れていました。親たちは子どもの恐怖心に対してどう応えればいいのかわかりませんでした。しかし、ヒブキを通じて親たちはそれに対応することができました。親たちは、子どもにもう二度と津波が来ない、ということを約束できませんでしたが、ヒブキも恐がっているのでヒブキを慰めたほうが良いという言葉をかけ、子どもを元気づけることができました。犬のぬいぐるみ「ヒブキ」は、多く被災地の子ども達を助けたのです。



私はそのぬいぐるみによるケアの話を知った時、とっても感動しました。73年前に杉原氏は約6,000人のユダヤ人の命を救い、希望を与えました。現在も、イスラエルの医療チームは東北に住んでいる子どもを支援しています。2012年に日本とイスラエルは友好60周年を記念しました。イスラエルと日本の相互援助は本当の意味での友好関係といえるものではないでしょうか。

さて、**3月10日**にプーリムカーニバルを開催します。プーリムというのは思い思いに仮装してみんなで一緒に楽しめるイスラエルのお祭りです。詳しくはチラシ・ポスター・CCNetをご覧ください。くか役場2階 産業課までお問い合わせください。

本年がみなさま方にとって幸多い年でありますようにお祈り申し上げます。本年もよろしくお祈りいたします。

本年がみなさま方にとって幸多い年でありますようにお祈り申し上げます。

メイトルさんへの質問は

meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！